

年頭に際して

茲に皇紀二千六百年を仰えるに當り、謹んで聖寿の萬歳と皇室の御繁栄を壽ぎ奉ると共に光輝ある國史に顧みて愈よ肇國の大理想の顕現に努め以て聖恩に應へ奉らん事を御誓ひ申します。吾、今より日記を書く事を志し、永久命の続く限りなす事を覚悟せり。今になって日記を書かうなどする我心の愚かさよ。最早吾、十八才の青年なり。生まれてより吾、何を以て今は生きるぞ。過去、悔ゆるも詮なし現在を考へてこの日記の貫徹を期さん。

1月 7日迄 冬休

8日 始業式

10日より寒稽古

14日 阿部内閣総辞職

同 米内海軍大将大命

16日 静岡大火

23日 校内武道大会

28日 会津五校冬季武道大会

一月一日 (月) 曇 寒

特別記事

一年の計は元旦にあり、而して計何も樹たたず、思へば我家旧暦を用ふ。

起床七時、外を見れば一面白雪に覆はれ非常に冷寒を感じました。八時半登校 九時より四方拝の拝賀式挙行後、十時半 帰宅す。

正雄スキーのストック (貳弗) 購入す。

午後二時 上野洋服店にモンペ四足仕立てを頼む後、市柳町のおなを叔母様の処にナタ、ツウナ、カンナを取りに行き出来なくて明日届ける事の由。

夜、正雄、忠雄、善四郎三人で新興館を見にゆく。今日は一日、晴れたり曇ったりの天気で風、西風にて強く、雪は半分消え、道路の日當のよい所は雪は消え屋根の雪も同じく非常に僅かで一寸も積もってない。

十一時に就寝す。

欄外の記事

霜とけて初日にけむる葎かな (鬼城)

聖徳太子生 (敏達帝 2) 豊臣秀吉生 (天文 5) 石川啄木生 (明治 19)

一月二日 (火) 晴 暖

特別記事

春のような天気で日陰は寒い、天は冬を忘れたのであろうか？

起床 七時 腹具合悪く、朝食を抜く。正雄、忠雄、善四郎、午前中、書初めを行ふ。

午後 田島に行く予定であったが事情によりて、田島行は卒業後と定む。

山口様前の新しい家に引越を五日になす由、午後三時より一時間昼寝す。

夕食に豚汁の御馳走あり。十時に藤崎八郎、酒井（新宿）休暇にて帰省して居たので会ふ。
今日は旧の二十三日で御愛宕様であり七日町地蔵様の縁日である。山口様より夕食の時「ダンゴ」を戴く。非常にうまかった。夜千代子姉さん栄楽座の「土と兵隊」を見に行った。
就寝十一時

欄外の記事

新しく國興る時選ばれしをのこよ國といのち同じうす（松本和雄）
加藤清正蔚山に明軍を破る（文禄3）各國公使始めて朝見す（明治5）

一月三日（水） 雪 寒

特別記事

雪よ降れ降れと僕は叫ぶ
何故なら、今年漸くスキー 我手に入れり、スキーは飾り物にあらず。

起床 七時 昨夜中より降り出した雪は約5糎程積もりました。愈（いよいよ）吾の待望の雪は降って来ました。子供等は朝からスケート等非常な騒ぎです。頼んだ靴も出来て来たのでスキーの萬般整いました。正午過ぎ大善屋のツギ子姉さん若夫婦が御出でに御寄りになりませんでした、と同時に天寧寺町の御叔母様と妙子が来て、三時頃御帰りになりました。
夕飯に一塩タラの御馳走あり。
夜千代子姉さんが大善屋に行きました。九時半より再び雪は本降りにしんしんと降り始めました。山口様より山口義茂君が兄さんの仕送りで愈上級学校に出る様な事を申されました。
就寝 十一時

欄外の記事

大君のみ楯と召されいでたたむ今朝紀の山に雲たちのぼる（木下幾之助）
鳥羽・伏見の戦（明治元）始めて元始祭を行はる（明治5）

一月四日（木） 晴 暖

起床 七時 朝食を抜く、昼飯よりお粥に定む。
午前中に会津銀行に小切手を持って行きそのついでに遠藤文具店よりスキーミデアム¥0.40購入 正午近く加藤薫さんが御出でになりました。正午過ぎ御婆さんが御出になりました二日位、お泊りの由。加藤薫さんは牧場を止め何処かの会社に御入りになる由、三時に御帰りになりました。四時より久しぶりで風呂を焚きました。夕食過ぎ漸く涌きました。
夕食に鮭のよう御馳走あり 食後ゆっくり風呂に入って御婆さんとお話しなどして十時半床に就きました。（八畳間）今日は昨日の雪は忘れられた如くぴったりとやんで十時頃には日本晴にからりと晴れました。

欄外の記事

大君は神にしませば天雲の雷のうへに庵せるかも（柿本人麿）
梟示刑を廃す（明治12）軍人に勅諭を賜ふ（明治15）叙勲条例を定む（明治16）

一月五日（金）この日は旗日（新年宴会） 雨 暖

特別記事

雪国の会津よ 雪！ 雪！ 噫（ああ）雪よ 何処にあるぞ 或るスキーマン

起床七時半、今日朝から雨で一日中降り続けました。今日は山口様の引越しと云ふので手達（ダヒ）に行くとも

だ暈が出来ないので二日位後れる由、寝坊したのでまもなく昼が近づきました。お父さんが午後一時五十分の汽車で名古屋・東京に仕入れの為、上京されました。一時半のガソリンカーで駅まで行かれる由ですが、ガソリンカー一運転中止で行く事が出来ず急いで自転車で行かれましたので駅まで自転車を取りに参りました。お婆さんより三銭つつ頂く。

午前中に正雄、柳原のおなを伯母様の所にカンナ・ツウナ・ナタを取りに行ったけれど出来ず、明日届ける由。

夕食は中川のそばの御馳走あり。三杯食う。

八時半、山口様お出でになり善寿さんが猿股に住所・名前を記入してやりました。駄賃に駄菓子頂く（十銭）
十時床に就く（店）

欄外の記事

葺きかえし藁の軒端の鋏鎌にしめ縄かけて年ほぎにけり（伊藤左千夫）

楠正行戦死（正平3）近衛内閣総辞職・平沼内閣成立（昭和14）

一月六日（土） 晴 暖

特別記事

「先んずれば人を制す」 岡本の叔父さん

起床七時半 丁度朝五時頃寒坊主の鐘の音を聞く、朝の中は少し寒じました。今日から小寒です。お父さんが留守の為私が店を開け店番です。午前十時半、お婆さんが腹具合が悪いので星医者に行かれ天寧寺町の家に戻られました。

忠雄、善四郎、十一時、天寧寺町に遊びに行きました。十一時半、関本の叔父さんがマント・オーバを持って御出でになりました。正午過ぎ帰りになりました。達雄さんが青島工場に行かれる由、文（フミ）の様に正雄のコール天洋服を頼む。

午後四時 天寧寺町に餅を御馳走なりに行きました。お婆さんは胃拡張の由、夕食はアンコ餅四杯、ツユ餅二杯食べました。重ね餅、ミカン、南京豆を頂き持ち帰る。（七時）夜、千代子姉さん天寧寺町に行く、明日がトシ子の七草

就寝 十時半

欄外の記事

事業を巧みに始むるは半ばごげたるなり（ラレトオ）

北条時政没（建保3）佐藤信淵没（嘉永3）良寛没（天保2）夏目漱石生（明治3）

一月七日（日） 曇 暖

特別記事 支那、新中央政権樹立に伴ふ我が基本方策の確立す。

六日の興亜院会議

本日の臨時閣議

起床七時半、朝食遅く八時過ぎ九時近く食べる。十一時、正雄、天寧寺町に行く。山口様にやる御祝儀と七草御祝儀取違へて昨夜、千代子姉さん、持って行った為、午後二時 山口善寿君朝鮮羅南入営の為揺に来る。出発は十一日、午後一時の由、二時半千代子姉さん帰る。お婆さんより「ほをどし」を頂いて持って来た。

三時に大町の叔母さん御出になられ四時半過ぎ御帰家、八時半、夕食の時正雄帰る。今朝田島の御叔父さんから速達で店の綿糸商業組合に登録されたし由葉書を受けたので団に行き話を聞き登録手続きを為す。九時、お父さん、仕入れの為上京から御帰家さる。右の事申し上げればお父さん非常に喜ぶ。お父さんのみやげ等食べ、名古屋・東京方面の商品の具合値段等の話を承る。

就寝十一時半、

欄外の記事

國をあげて戦のかくご持つ春ぞ女をとめも遊び居らめよ（横澤紀彦）
足利義政没（延徳2）初代豊國没（文政8）菱刈大将凱旋入京す（昭和10）

一月八日（月） 晴後雪 寒

特別記事 此の学期は不言実行で行かう

起床七時二十分、今日から学校である。急いで用意をして、八時登校す、九時始業式大掃除、級主任のお話、十時帰宅す。寒稽古は十日からの由。

午後一時四十分自転車で柳原のおなを御伯母様の所に行き「ツウナ」を持ち帰る。カンナ、ナタは二三日後届ける由。午後より雪がふったりやんだりして夜には二三糶積もりました。

夕食後お父さん山田様に御餞別を持って行く。重信さんは明日十二時の列車で出発、入営は朝鮮の野砲連隊、その後、山口様に行かれる、八時半、善喜さん御膳を持たせ来るそれを御馳走になる。七時より糸を五百つり乍ら皆んなでくりにしました。十時スキーを道路でやって見たが雪少し、うまくないので止めた。

就寝 十一時

欄外の記事

松取りて侘しき心立ちて見る（青峰）
ガリレオ没（1642）始めて観兵式を行ふ（明治5）

一月九日（火） 雪 寒

特別記事

寒稽古、克己、忍耐、実力をつける

起床七時半、雪は三寸位、積り直も吹雪である。

八時登校、柏村先生より明日から十日間寒稽古を行ふ商品実軽は来週から行ふ教練学科花角先生兵語に就いて経済輸出増進策に就いて法規は近藤・今池両先生で行ふ由、五校時目に風間先生より寒稽古に対する注意あり特別練習をやる。武徳会段証を戴く、四時半帰宅す。

夕食に餅を頂く。ツユ餅四杯、ゴマ餅五ツ、納豆二つ食べる。夜、伊勢松御叔さんが来る。

廣（ヒロシ）が帰って来てある由。八時御帰りになる。九時半、床に就く。

欄外の記事

己れを知る人はまた他人を知る（英国俚諺）
ナポレオン三世没（1873）六鎮台を置く（明治6）世界大戦講和条約成る（大正9）

一月十日（水） 雪 寒

起床四時半、着物を着て登校す、去年の寒稽古程の寒さでなく割合に練習し易く思はれた。五時より七時迄、掛稽古を行ふ。初日なので少しつかれを感ず。血豆手に一つ出来る、七時半帰校す。朝食後、九時登校す、九時三十分より授業開始三十分授業六校時行ふ。午後三時五十分帰宅す。

四時頃より少しく眠気をもよほして少しく昼寝をす。

夕食の時おなも様御出になりて御寄もせず御帰りになる、八時半までノート整理す。今日は十一時頃より吹雪となる。それ以前は日本晴れのよい天気であった。雪はなほも降り続く。九時半、床に就く。

九時 久さし振りにて、山口様御出になる

欄外の記事

支那統一の企図はさもあれ日本を敵にまはしし蒋介石をあはれむ（齊藤瀏）

徴兵令公布（明治6）皇軍青島を無血占領（昭和13）

一月十一日（木）曇寒

起床四時四十分 服を着てスピードで登校す雪は約一尺程積りました。五時より稽古、七時前に終わる。今日より会中も寒稽古を始めた由、七時半、帰家す。九時半登校す、六校時目、体育の時間に講堂で二年生と一緒に「紀元二千六百年頌歌」をレコードにて練習す。

放課後、スキー部、明日沼尻スキー大会出場する為に出発するので応援す。午後四時帰家す。

夕食鱈の一塩の御馳走あり。

八時迄ノート整理す。後「あやめ湯」に行く風呂で今朝三時半頃愛宕町に火災があつて御爺さんが焼死んだ由、八時家に帰る。

今日山口善寿君出発す。

会工明日より寒稽古を始める由、十時床に就く

欄外の記事

正しく考へ真実に話せ（フランクリン）

伊能忠敬生（延享2）皇国不動の方策決定の御前会議・厚生省開廟（昭和13）

一月十二日（金）曇寒

起床四時半、直ちに登校途中芦沢君と一緒に五時より稽古を始める。七時終わる。今日で三日目である。七時四十分帰家、正雄寝坊して寒稽古に遅れる。九時登校す九時二十分朝礼始まる。金子先生より掛軸を一年生に譲ってくれるやうにと話しあり。四校時目始めて近藤先生の法規を行ふ。三時四十分帰家す。

昨日より千代子姉さん大善屋の女中に御裁縫を教へに行く事となり今日も朝から行く。

夕食 イワシを食べる。

山口様夜御出になり、善寿さんが郡山に無事に到着した由、少年倶楽部二月号を読む、九時五十分床に就く。今日は寒さもゆるみ雨が珍しく降る。

欄外の記事

馬黒しびひと火線の樹氷散る（桜井武司）

始めて紙幣を発行す（建武元）ペスタロッツ生（1746）

一月十三日（土）曇寒

起床四時五十分 急いで登校漸く間に合ふ。五時より七時迄稽古、七時半、帰家す。

此頃は割合に寒くないので都合がよい九時登校す。九時二十分朝礼後直ちに連隊に慰霊祭に行く。本校先輩二人、山田足袋屋息子、江戸屋、下平中尉が入って居られます十時半学校に到着す。

三校時商作補充時間教練小林教官今度の歩兵操典改正の概要に就いて四校時商算放課後大掃除二時半帰家す。横沼のおよし様御出になってゐる。千代子姉さんも朝から大善屋に行く。

午前中少し雨が降る雪も相当ざくざくして来た午後中山川様に赤ん坊の御祝儀を正雄持って行く。夕食にのみやイワシ 夜山口様御出になる。

九時半床に就く

欄外の記事

北支那の浅き港につはものを載せたる船はしばし動かず（石井柏帝）

源頼朝没（正治元）ハンガリー防共協定参加（昭和14）

一月十四日 (日) 雪 寒

特別記事

阿部内閣総辞職 午前九時 臨時閣議後 辞表捧呈す
午後 七時十五分 米内海軍大将 大命降下

起床 四時半 登校、五時より七時迄稽古す。

八時 十分前に帰宅す。朝より細かな雪がちらちらと降り風起こり夕方に吹雪となる。

朝よりお父さん御身體具合悪く寝て御出になる。夕食後より起き店に出られる。私は店番故一日中店のコタツに入る。スキーに行く予定なりしも天候悪く不可能となる。

千代子姉さん今日も大善屋に行く。

寒稽古も五日目となり峠も過ぎ愈、下り坂となりました。足豆手豆で弱りました。

頑張ってやろう、見学せずに、弱音を出さず、無言で最後まで・・・

九時半、床に就く

欄外の記事

やうやくに冬は深しもここに聴く数種の鳥はみな聲の鋭き (大木達治)
ピエール・ロテイ 生 (1850) 警視庁設置 (明治14)

一月十五日 (月) 雪 寒

特別記事

総理大臣 米内光政 外務大臣 有田八郎 陸軍大臣 畑 俊六
海軍大臣 吉田 善吾 書記官長 石渡壮太郎 法制局長官 廣瀬 久忠

起床 四時五十分、寒空に星輝く風強く寒し、登校五時十分より七時迄稽古。

九時登校、九時二十分朝礼、遠藤先生より昨日行われた沼尻スキー大会の概況全日本スキー選手権大会出場者五名入る。朝礼後、市主催慰霊祭参拝に公会堂に行く十時四十分帰校す。二時より授業をなす。

三、四校時商品、実験を行ふ予定なりしも準備不完全の為来週再び今日の事をやる事、五校時の支那語に支那音楽をレコードにより聞く、三時五十分帰る。

十一時頃より雪降り出す。夕方吹雪となるも後雪止む

午後八時半 山口様御出になる、

今日は公休日です

九時半 床に就く

欄外の記事

知識進めば益々護送に傾く (フキールデング)
モリエール生 (1622) 坂下門の変 (文久2) 小栗風葉没 (大正15)

一月十六日 (火) 晴れたり曇ったり 寒

特別記事

内務大臣 児玉秀雄 大蔵大臣 櫻井幸雄
司法大臣 木村尚達 文部大臣 松浦銀次郎
商工大臣 藤原銀次郎 逓信大臣 勝 正憲
鉄道大臣 松野鶴平 拓務大臣 小磯国昭
厚生大臣 吉田 茂
本日午前十一時半 親任式挙行す

静岡市大火 七千戸 損害 八千万円

起床四時四十分 五時より七時迄稽古、七時四十九分 帰庭 九時過ぎ登校、バックネット付近で第一鈴鳴るカチカチに間に合ふ 六校時道場で二千六百年歌一、二年と一緒に練習す 近藤先生外五年生は満州国歌を習ふ 放課後、実践室掃除、四時帰庭す。

夕方 おなを伯母様カンナ持って来られた。

夕食はイワシを御馳走になる。

七時 山口様お出になる。

千代子姉さん大善屋へ行く。

朝から天気よく、室内では日でぼかぼかです。

来週火曜日校内武道大会寒稽古納会の予定 九時半 床に就く

欄外の記事

その表紙によりて書籍を判断する勿かれ (英国俚諺)

帝国政府对支方針重大声明 (昭和 13) 満州国防共協定に参加 (昭和 14)

一月十七日 (水) 曇 寒

特別記事

校長先生 根気 運

起床 四時五十分 登校 五時 - 七時 迄 稽古す。

七時五十分 帰家す 九時登校す 朝礼に弘道館段証授与式あり。

四校時より実践、六校時まで行ふ 四時 帰家す今日は大黒様の年とりである ザクザク煮物夕食に食べる。本立 完成す。夜、お母さん大善屋に御出かけになる。朝から寒じが激しい近年にない寒さであった。

就寝 九時半

制度を一大改革の必要あり

今度の内閣は「現状維持」である噂を聞くフランスはデフレイションの形になる、即ち物品が高くなるから物を買わないで間に合せよう 我国は之に反して高くなるから買締て置かう売惜をする故に悪性インフレイションの形好になる。

欄外の記事

軍馬の碑寒む寒む見えて雪明り (吉田雨花)

フランクリン生 (1708) ワイズマン生 (1802)

一月十八日 (木) 曇 寒

特別記事

反田先生

静座 = 静的禅 作業 = 動的禅

師の言と己の言を同じくする勿れ

起床四時半、登校、稽古何時もの通り

今日で九日目である、あと明日限りである。

九時登校 二校時商英高山先生支那の風呂に就いて話しあり。六校時体操反田先生、先生が東京に体操の講習を受けて来た事に就いて話しあり、及び国民体操第一、説明注意あり。三時四十分帰家す。

風呂を湧かすも炭、乾燥不十分の為、燃えず取り去って薪を焚くも風呂水むりて駄目、お父さんと友子が入っただけ、私はあやめ湯に行く。非常混雑を生ず、湯少なく非常に熱くて人々の避難の声が多かった。

八時半帰る。

就寝九時半

欄外の記事

いたづきの長き病はいえねども年のはじめと咲ける梅かも（正岡子規）

江戸振袖火事（明暦3）モンテスキュ生（1689）三宅やす子没（昭和9）

一月 十九日 （金） 雪 寒

特別記事

教官より

公私の別

実業学校は中学校より比較して利己主義者が多いと友人の有難さ起床四時五十分 登校 稽古 今日で十日間の寒稽古も無事に終了を告げました。

九時登校、急いで行く。朝礼後稲お先生にくいを焚いた事発覚、一校時週番及び全級週番職員室に召喚取調及び説諭あり。二校時少お教官の説諭及び、先生に謝罪をなす、三校時教練「歩哨一般守則、特別守則を書け」試験あり。四校時田部井先生工業大意放課後、武道大会の準備をなす。四時半帰家す

夕方大善屋のお叔母さんお出でになりお上がりにならないでお帰りになる。

夕食後、七時半スキーで第二小学校迄行って来る。七時お母さん、忠雄、善四郎友子あやめ湯に行く。八時半帰る。お父さん正雄、其の後湯に行く九時十五分帰る。

山口様、八時四十分おいでになる。九時二十分お帰りになる。父、寒暖計菅野薬局より購入（55 銭）就寝、九時六十分

欄外の記事

真理の本質は平易明瞭の二者なり（ミルトン）

ポオ生（1800）幕府始めて遣米使節を出す（萬延元）元帥府設立（明治31）

一月 二十日 （土） 雪 寒 0.5℃

起床七時 外は吹雪ぎみであった。八時登校間もなく朝礼の鈴なる一校時英作予習してこなかったのであわてる。よい具合に当たらなかった。二校時商作風間先生より少し世間の話聞く。十二時半昼食後、剣道大会の準備、三時半家に帰る明日猪苗代に行く費用一円頂く、荷受をなす夕食イワシ、御馳走ある。

夜山口様お出でになる 今日吹雪になったり晴れたり夕方よりしんしんと降り初めました。

千代子ねえさん風呂に行く十時帰る

十時半床に就く

欄外の記事

おく霜にそこなはれむはしりながら咲出づる梅のいさましきかな（阪正臣）

木曾義仲戦死（寿永3）ミレー没（1875）先帝に大正天皇ご諡す（昭和2）

一月二十一日 （日） 雪晴雪 暖

特別記事

何事もおもひ切ってやる事が大切である。失敗は成功のもと何事も恥ずかしながら躊躇せず、心臓は強かれ

起床七時外は雪がしんしんと降り、昨夜より降り続き約一尺余積りました。九時停車場に行く横山（三）西潟君、居るも汽車三十分遅れるので猪苗代着十一時頃に付行く事見合わせる。横山君と吉川君を誘って滝沢峠に行く。飯盛山にて両君に分る。東山敬山スキー場に一人で行く。去年スキー折った雪辱とばかり意気込んで行くも心臓弱く思ふ様にゆかず転ぶ事数十回手は痛み足はつかれ泣きたくなる程、スキーはこりごりだ！！四時近く天寧寺町に行く。三郎叔父さん田島より来ておられた。夕食御馳走になる、あぶらげ飯、卵のつゆ、冷豆腐おひたし、

あぶらげつくわ煮付け、かぶのおしる、堂々四杯頂く八時半帰宅す。
九時半、三郎叔父さん御出になる十時山口様御出になる
十一時 床に就く

欄外の記事

たもとほる万葉の野の雪間かな（風生）
レーニン没（1924）日露修好条約調印（大正14）

一月 二十二日 （月） 曇 寒

起床八時十分前 驚いて急いで用意して登校八時十分に学校についた、余程時間が進んでゐた。
三校時、四校時と商品実験（塩鑑定）昼食後、栄楽座、鞍馬天狗マザー戦線とフランス国防、漫画ニュース（二）
一時より三時迄観覧す、料金十銭四時、帰宅す。
新聞を見ると浅間丸、東京湾頭の公海に於いて英国巡洋艦に臨検され同船してゐたドイツ人二十一名拉致された
記事あり。昨日十一日目無双横綱双葉山五ツ島に叩き込み、されて敗る四時半、昼寝す 六時 食前に目を覚まし
夕食おぞうさいを食べる 明日 寒稽古納会校内武道大会あり、七時半お母さん田島の羊羹を以て大善屋に行か
れる さつまいも食べる
九時半 床に就く
校長室にて二校時休み時間に寒稽古指導者に対してメダルを頂く

欄外の記事

大才は愚かなるが如し（支那俚諺）
バイロン生（1788）獣阿彌没（明治26）北鐵譲渡交渉成る（昭和10）

一月二十三日 （火） 晴 雪 寒

起床七時半、寒じが激しく晴天にして耳はもげそうである。登校九時より（朝礼出ないで準備す）寒稽古納会を
兼ねて第三学期校内武道大会を施行す、各学年別、一、二、三、四、年一本勝負五年生、三本勝負にて十一時三
十五分で昼食とし、十二時より五年時別及一から四年迄のリーグ戦を行ふ。自分は遠藤 豊2-1川井にて敗る。
結局実力不十分下半の一言に帰す、二時剣道終了柔道三十分程遅るお田先輩午後御出になる放課後色々話を承る
放課後寒稽古指導者（校長、風間、小林教官三人）全部で講堂にて写真を撮る 三時半吹雪の中を家に帰る
四時半より六時まで昼寝す、今日はえびす様の年取りにてザクザク煮物、イワシの御馳走あり
十時 床に就く

欄外の記事

クリークの寒月ゆるるところにしていま着きし兵米を磨ぐなり（千葉新一郎）
スタンダール生（1783）マネエ生（1832）廣田内閣総辞職（昭和12）

一月二十四日 （水） 晴 寒

起床七時半、登校 朝礼に於いて沼尻及び猪苗代スキー大会優勝者に賞状並びに賞品授与式あり。一校時 修身、
実社会 二校時 漢文解釈 三校時 法規、近藤先生為替手形（東組合併）四・五・六 実践 放課後 補助簿
作成の為、山崎君と四時半迄実践室東京銀行内におる四時五十分帰宅す。
食後、眠気をもよほし八時半頃、就寝す。

浅間丸事件 船長処置如何

日本の船を信用して乗った船客それを一たん預かった船長はおめおめとドイツ船客を引き渡してよいだろうか。

腹で行け

欄外の記事

裁ち縫はぬ衣きし人もなきものをなに山姫の布さらすらん (伊勢)

徳川秀忠没 (寛永9) フリートリヒ大王生 (1712) 京阪間に郵便設置 (明治4)

一月二十五日 (木) 晴 寒

朝七時半 起床 晴天であるが、相当寒じは激しい。

短靴切れた為、長靴を履いて登校、朝礼稲お先生より登校をもっと早くする様注意あり。

一校時から商算、二 商英、三、英、四英作、五、体 六、支那語 放課後 剣道型写真 四人撮るのを見て四時半帰校す 夕食 豚汁の御馳走あり、汁四杯飯四杯食べる。

九時あやめ湯に行く、十時帰る、山口様御出になってゐる十一時過ぎ就寝す

山田先生時局談 (十分間)

一、浅間丸事件 (見通しがついている英国外交の老かい)

一、新支那中央政權に就いて

事変段落 和平綱要 成立 外国関係

欄外の記事

太欲は無欲に似たり (徒然草)

法然寂 (建暦2) 契沖寂 (元禄14) 大阪宝塚劇場全焼 (昭和10)

一月二十六日 (金) 曇 寒

起床七時半、登校 朝は晴天であったが次第に天候は悪く曇って参りました。

第一校時国語、二、法規校長先生有価証券の特則公示催告、除権判決に就いて又、相続の場合父の遺した借金を免れる方法 限定証人をなす財産の名義書、換いておく。但し二年以内は無効、故に法律を知らないと損す場合がある由。

三校時教練花角教官改正操典による中隊・小隊の編成に就いて、四校時 工大、五、会計 六校時 歴史 放課後 特別練習をなす 五時半 帰家す。

午後九時半停車場に行く。終列車に村田先輩満州中央銀行に行く、列車四十分程遅れ

十二時 帰家す

就寝 十二時半 也

欄外の記事

内房に浅き緑の羊歯の葉をとりいれし夜の雪の音かな (晶子)

北海道庁設立 (明治19) 南京にて援支ソ聯機を撃墜 (昭和13)

一月 二十七日 (土) 曇 寒

特別記事

運動不足は體衰弱の基ひなり

起床七時半 八時 登校 朝礼 第一校時 英作 第二校時 商作「寒中見舞文」

作成、 第三校時 珠算 読上算試験あり、四校時 商算 放課後 実践室掃除
午後三時 道場に於いて明日の会津五校冬季武道大会選手任命式あり、五年選士永瀬貳段明日八時半迄学校集合
の事場所会津工業学校に於いて行ふ 三時半 帰宅す
夕食、カズノコ、ショパイササギ、オヒタシ、ゴマ塩、ノリツクダニ、漬物、オシル、御馳走あり
八時 正雄風呂に行く、千代子姉さんは大善屋に行く。八時半 自分はお父さんの言付で山田（原之町）ハタ屋
に糸を取りに行く。自転車にて
十時半 床に就く

欄外の記事

夫子が来て臥ししかたはら寒き夜はわが手枕をわれぞして寝る（和泉式部）
源実朝殺せらる（承久元）モツアルト生（1756）久邇元帥薨去（昭和4）

一月 二十八日（日） 雪 寒

朝七時四十分起床、朝は晴天であったが十時頃より降雪となりました。朝食後八時半会工に行く途中未だ選士は
来て居りませんでした。まもなく選士一同来る。
十時十分、試合開始し、午後二時半終了。
成績 若商第一位、二十六点 会中第二位、二十二点 会工、会津喜多方中、会農の順序。
会中 保志君出場す。佐藤三保君に会ふ 永瀬君 全勝、一度学校に帰る後、途中、江戸屋に寄ってキナコ餅一
皿十銭食べる。三時半家に帰る。夕食に豚汁の御馳走あり
お父さん朝から関節リウマチに弱って居られた、九時山口様御出になる。
就寝 十時

欄外の記事

梅林の外にでて鶴は羽ばたけり芝生につくる影のおほきさ（中村憲吉）
古事記奉上（和銅5）ドストイエフスキー没（1881）上海事変起こる（昭和7）

一月 二十九日（月） 曇 寒

起床 七時半 朝からどんより曇った天気です今にも降り出しそうな模様であった。登校、朝礼に中井先生から週
番、全級週番の任務に就いて第三、四校時商品鑑定、サンプル用意しなかった為実験出来ず外の方を見学す
明日、第三学期校内懸賞弁論大会の由午後四時 帰家の途につく。
夕食 オゾウ煮を食べる 食後七時十分前にザツコを以て天寧寺町の叔父さんの処に行く 七時十分着。お祖母
さん非常に喜ばれる。
南京豆、飴玉、キノコ煮付、茄子漬の御茶をけあり、昆布湯もあり。トシ子七草写真戴く九時十五分帰宅す、直
に荷造五ツをなす 十時半 山口様御出になる、十一時二十分荷造終る、御茶を飲み十二時床に就く

欄外の記事

酒場の灯雪ふきつけてなほ赤き（林火）
チエーホフ生（1860）ロマン・ローラン生（1866）

一月 三十日（火） 曇 寒

起床 七時半 朝から気分が悪く風邪気味である、咽頭は痛み体はだるい。非常に困りました。登校 朝礼の際
大川先生より二校時終了後、講堂に集合。一校時 経済 二校時 商品 十一時より校内懸賞弁論大会出場者十
六名飛入、校長及び小林教官の詩吟、風間先生の所感（桃太郎）橋本護のハーモニカー、結果 一等四年大平善

健 二等 須田昇 以下八等迄商品授与三時終了、終りに二千六百年の歌練習す。
放課後 剣道部額に残す写真を取る予定なるも変更 三時四十分帰家の途に着く。
お父さんリウマチで今日も非常に痛んで三時頃鎮痛した由後、善四郎をつれて紫湯に行かれる。夕食後、お母さん、友子、忠雄、あやめ湯に行く
九時 就寝

欄外の記事

何人もその希望を悉く満足すること能わず（セネカ）
日英同盟成る（明治35）独逸内閣ヒットラーを首班として成る（昭和8）

一月 三十一日 （水） 曇 寒

朝七時半 起床 昨夜より咽喉痛く今朝になるも癒らず一層激痛を感ず。
登校 朝礼にて友田先生より土曜日に校内スキー大会を東山新スキー場に開催す競技種目三種とす。回転、距離、継走の右競技目申込は今日の昼迄とす。
第一校時修身、校長 自由主義、全体主義、共産主義思想問題に就いて 浅間丸事件、軟弱外交、西洋カブレ、外人崇拜、第二校時 実践荷為替 放課後 一時半程残る 四時二十分 帰家す お父さん又弱っておられる。
夕食後 店で本を読む 九時半 お父さん風呂に行く
十時十分 床に就く

欄外の記事

冬たけて海よりのぼる鷗多しすでに土佐堀の朝空を飛ぶ（川田順）
ベン・ジョンソン生（1564）シューベルト生（1797）西南の役（明治10）